京都教育大学
KYOTO UNIVERSITY OF EDUCATION
教育創生リージョナルセンター機構
教職キャリア高度化センター

NEWS LETTER

R８年度　第１号（R８.５.８）

令和８年４月　新機構長からのご挨拶

榊原　禎宏　教育創生リージョナルセンター機構長

このたび、教育創生リージョナルセンター機構長を拝命しました。何卒よろしくお願い申し上げます。

さて、本機構が擁する二つのセンターに冠される「センター（中心）」という言葉の意味を考えてみましょう。本学に置かれる１３の学科は、それぞれが学術領域としての「中心」を形成しています。翻って、両センターがいかに「中心」たりえるかと問えば、その根拠は自明とは言えないかもしれません。

ここで想起すべきは、円における中心の概念です。それは往々にして視覚的に明らかではありません。しかし、その中心が存在するからこそ、均整を保った弧を描くことが可能になります。しかも、中心が確かであるほどに、弧はより大きくまた太く描かれるでしょう。本機構のセンターもまた、地域に根差しつつ大学内外の諸活動を繋ぎながら円滑な軌道を描く「不可視の結節点」を期待されているのではないでしょうか。

とりわけ教職キャリア高度化センターには、教員養成および教職支援の側面で、教科や学校種といった学術的そして実践的な専門性にかかわらず、学生や教員が調和のとれた教育者としての職能を獲得、形成する上での多様な支援が求められています。京都府・京都市の教育委員会および学校ほか関係機関とつながりつつ、このミッションを果たすことができますよう、みなさまのご指導とご支援を心よりお願い申し上げる次第です。

令和８年４月　新センター長からのご挨拶

田爪　宏二　教職キャリア高度化センター長

この度、教職キャリア高度化センター長に就任いたしました。これまでも本センターには大変お世話になってまいりましたが、運営の任を仰せつかり、改めて身の引き締まる思いです。

私の専門である発達心理学では、子どもたちの心身の発達は個としての問題だけではなく、学校や家庭をはじめとする教育環境の影響も強く受けると考えられています。特に、教師が子どものどのような面を見取り、評価するかによって、発達の可能性は大きく左右されます。

また、「環境が発達する」という視点があります。教師が子どもを支援する過程において、教師自身もまた、子どもと向き合う経験を積み重ねることで、子どもの理解や教育的支援のスキルを深めていきます。つまり、子どもだけでなく教師もまた発達し続ける存在であるといえるでしょう。近年の研究では、実践者について、養成段階から新任期、そしてベテランに至るまでのプロセスを専門職の発達過程とする考え方（例えば、統合的発達モデル〔IDM〕など）も提唱されています。これは、教師のキャリア発達にも当てはまると思われます。

こうした視点に立てば、本センターは教師を目指す学生や現職の先生方の生涯にわたる発達を支援する、重要な役割を担っているといえます。そして、教育に携わる方々への支援や研究を通して、私たちもまた、共に発達していく存在でありたいと考えています。

令和８年４月　新任教員からのご挨拶

中橋　雄　教授

教職キャリア高度化センターに着任いたしました中橋雄と申します。専門は教育工学であり、なかでもメディア・リテラシーを育成するためのメディア教育に関心をもって研究に取り組んでまいりました。これまで、初等・中等教育の現場を主なフィールドとして、学校現場の先生方と一緒に教材開発研究や教育実践研究を行ってきました。

本学においては、「ICTを活用した教育に関する研究及び教員研修の企画・実施」をはじめ、「主に高等学校教科情報の教員免許状に関わる授業担当」や「大学院における研究指導」、さらに「教育DXの推進」などの業務を担ってまいります。

皆さまと力を合わせながら、本学の発展に貢献してまいりたいと考えております。どうぞよろしくお願いいたします。

池辺　純次　教授

４月から、教職キャリア高度化センターにまいりました池辺純次です。昭和最後の３月にここを卒業してからこの３月末まで、３８年間府立高校に勤務しました。城陽高校、久御山高校と桂高校でそれぞれ教諭として２１年、京都府教育委員会勤務を経て網野高校、洛西高校と京都八幡高校で副校長、さらに京都八幡と北嵯峨高校で校長として勤務しました。昨年度は人材育成担当教員として園部高校で勤務しました。

後進の皆さんの成長のお役に立てるように、母校と教育委員会への御恩返しのつもりで、日々自らも学びながら励みたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

白井　純子　准教授

本年度より教職キャリア高度化センターで勤務することになりました白井純子です。令和７年度までは、京都市の中学校で勤務しておりました。これまで、京都市・京都府の公立高等学校、京都市の中学校、義務教育学校（高等学校、中学校、小中学校）で勤務し、また３年前には、京都教育大学連合教職実践研究科（学校臨床力高度化系）で現職教員院生として学ばせてもらいました。

多様な校種や市と府の公立学校での勤務経験、現場と大学院での学び（理論と実践の往還）など、これまでの様々な経験を活かし、「対話」を大事にしながら、京都教育大学の教育の充実に寄与できるよう力を尽くしてまいる所存です。どうぞよろしくお願いいたします。

左から池辺純次教授、中橋雄教授、田爪宏二教職キャリア高度化センター長、白井純子准教授

所属教員

機構長
榊原　禎宏

センター長
田爪　宏二

センター次長
市田　克利
樋口　とみ子

専任教員
池辺　純次
大久保　紀一朗
白井　純子
民岡　薫
中橋　雄
西山　由美
山下　和美

兼任教員
小谷　裕実
小山　宏之
榊原　禎宏

連絡先

ボランティアオフィス
（月～水・金　10:30～13:30、
木　10:30～14:30）
TEL：075-644-8336

スポーツ指導者養成オフィス
（月～金　10:00～13:00、
14:00～15:00）
TEL：075-644-8143

事務担当
学術研究支援課
研究支援グループ
TEL：075-644-8846/8793

令和８年３月　退任教員からのご挨拶

原田　信一　教育創生リージョナルセンター長

この度、教職キャリア高度化センター長として２年間、教育創生リージョナルセンター機構長として１年間、計３年間にわたる任期を終える運びとなりました。在任中は、地域社会と大学を結ぶ教育創生の基盤づくり、そして次代を担う教員の資質能力向上を目指す「教職キャリアの高度化」という、本学の根幹をなす職責に携わらせていただきました。変化の激しい教育現場のニーズに応えるべく、微力ながら組織の一員として邁進できましたのは、ひとえに教職員の皆様、ならびに関係各位の温かいご支援のおかげです。とりわけ、各センターの先生方、事務の皆様、そして温かい助言をいただいた教育委員会の皆様には、深く感謝申し上げます。

今後は、立場こそ変わりますが、別の角度から本学および地域の教育発展にお役に立てるよう努力いたします。

最後に、教育創生リージョナルセンター機構、ならびに教職キャリア高度化センターのさらなる飛躍と、皆様のご健勝を祈念いたしまして、ご挨拶とさせていただきます。

吉川　孝　教授

ありがとうございました。４年間お世話になりました。京都教育大学では教職キャリア高度化センターと教職大学院初任期コースの兼任教員として、学部や教職大学院での授業を担当し、学生や院生との対話を楽しむことができました。特に教職大学院での毎週の高校ゼミの時間は現在の学校のよさや課題について、現場にいる時には気づかなかったことを多く知ることができました。また、現職の先生方に向けての研修講座をいくつか受け持ち、「教員として大事なことは何か」を考える毎日でした。そして、私自身、学校をフィールドとして学会発表や論文投稿もしました。そのような大変充実した日々を送ることができましたのも、センターの皆様のおかげだと心から感謝しております。４月からは京都府教育委員会での勤務となり、「よりよい学校とは」をいつも考えながら仕事をしていきたいと思います。本当にありがとうございました。

米澤　武史　准教授

本学には令和５年４月より３年間在籍しました。

本学に赴任するまで、京都市中学校理科教員として担任・学年主任・研究主任・生徒指導主事・教務主任・指導主事・教頭として多くの業務に関わらせていただきました。他の教職員の方よりも経験した業務内容は多いと思います。これは教員としてすごく幸せなことで、講義やセミナー、面談での助言等に大変役立ちました。これまでの中学校での授業、学級経営や生徒との関わりで、「こうしておけばよかった」「こうするべきだった」と多くの後悔があったのですが、次代を担う学生の方たちとの関わりで、少しでも取り戻すことができたことが一番の喜びです。

間もなく教員としてのゴールを迎えますが、最後に携わりたかったことはやはり教科指導です。教員の一番の使命は児童生徒の学力保障、すなわち「授業」をしっかりと行うことです。教員がどう教えるかではなく、児童生徒がどう学ぶのかに重点を置いた授業実践が大切です。そのことに教員生活の最後の異動先で関わることができるのは大変ありがたいことだと考えています。

先生方そしてスタッフの皆様方に心より感謝申し上げます。今後の京都教育大学の益々の発展を心より祈念しております。

新体制になった教職キャリア
高度化センターを引き続き
よろしくお願いします。

「令和７年度スペシャリスト教職支援プログラム」の報告

「令和７年度スペシャリスト教職支援プログラム」を実施しました。本プログラムは、京都府教育委員会と本学の連携事業であり、教職キャリア高度化センターで実施しています。受講者は「教員免許状を有していないが特別免許状の授与要件を満たす者」として採用の内定された方、またそれに準じた方を対象とし、オンデマンド型研修と対面研修とを組み合わせたハイブリッド型研修としています。

対面前に視聴する研修動画は、「『人権』について」（京都府総合教育センターとの共同制作）、「GIGAスクール構想と学習者主体の授業」（大久保）、「カリキュラム・マネジメントの充実」（樋口）と「高等学校における工業教育について」（原田）です。その後、令和８年２月２８日（土）に対面研修を実施しました。研修内容は「生徒理解について（特別支援教育の観点から）」（鈴木英）、「よりよい授業づくりをめざして」（市田）、「保護者との関わりについて」（西山）と「教員として、４月、よいスタートをするためには」（吉川）でした。

受講者の感想には「自分の考えをゆっくり見つめ、少し冷静に自分の姿を見つめることができた」、「他の先生との対話の時間で、みなさん同じような不安や悩みを抱えていることがわかり、とても安心した」「新鮮な気持ちを思い出すきっかけになった」など、４月からの教員生活に向けて、前向きに考える機会としてもらえるプログラムでした。

「学び続ける教員へのメッセージ」シンポジウム開催の報告

今年度も「学び続ける教員へのメッセージ」として、シンポジウムを令和８年３月１４日(土)対面・オンラインのハイブリッド形式で行い、全体で２３０名の参加がありました。テーマを「これからの教育(令和の日本型学校教育)と教師に求められる資質・能力『これからの学校教育に求められる探究学習とは』」として、泰山裕氏（中京大学教授）、長砂健氏（京丹後市教育委員会指導主事）、川上由希子氏（京丹後市立久美浜小学校教諭）、小栗優貴氏（本学講師）の計４名のシンポジストと、コーディネーターとして大久保紀一朗氏（当センター講師）を迎え開催しました。

前半部分ではシンポジスト発表として、教育現場での実践、教育行政からの学校現場への支援、教科における探究のデザイン、および、これからの学校教育に求められる探究学習という視点から情報提供をいただきました。

後半部分では参加者からチャットツールを用いて寄せられた質問に、各シンポジストの知見から回答し、対談と意見交流を行いました。より現場での実践に焦点をあて、「これからの学校教育に求められる探究学習」という考え方について理解を深める場となりました。

令和８年度　行事予定

教職キャリア高度化センターでは、今年度も皆様の学びと交流を深める行事を計画しております。

講演会とシンポジウムの順序や日程などは、変更の可能性があります。詳細が決まり次第、改めてご案内いたします。皆様の積極的なご参加を心よりお待ちしております。

- １１月３日（火・祝）：講演会
  専門の講師を招き、現代の教育課題に迫ります。
- ２月～３月（週末）：シンポジウム
  一年の総括として、多角的な視点から教育の未来を議論します。
- 開催検討中：映画鑑賞＆座談会
  学校教育をテーマにした作品を鑑賞し、リラックスした雰囲気で語り合う場を企画しています。